
2020年7月21日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp>

## 中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.101

### <思春期の生徒とラポールを築く>

新型コロナウイルスが日常を変え、そして、新しいライフスタイルが求められるようになりました。6月から学校も再開されましたが、7月に入り、新型コロナウイルスの感染が収束に向かうどころか、いたるところで再び感染者が増え、今まさに第二波の入口に立っています。

私たちは、この流れに抗して、感染防止策を徹底的に行っていきましょう。そして、しっかりと塾を開け、生徒に学習を保障していきましょう。この環境の中で、旧来のような至近距離でのコミュニケーションも遠慮しがちな状況です。そんな状況で、子どもたちと効果的なコミュニケーションを取るには、質を上げるしかありません。

そこで今回は、「思春期の生徒を刺激する」と題して生徒と教師のコミュニケーションを考えてみたいと思います。この刺激の前提は、生徒とラポールを築くことです。ラポールとは「心の架け橋」のことです。授業に代表されるように、あらゆるコミュニケーションで成り立っている学習塾において、生徒や保護者とラポールを築くことは、教室運営において大きな土台となるものと言っても過言ではありません。しかし、特に難しい時期でもある思春期の生徒とラポールを築くのは容易ではありません。今回は、今まで私（中土井）がやってきた生徒とのラポールの築き方、刺激の与え方を紹介したいと思います。

#### 1. 生徒のところまで降りていく

思春期の子どもは、とにかく不安になっています。多かれ少なかれ、「誰も僕のこと（私のこと）を理解してくれていないんじゃないか」と感じる傾向にあります。ですから、「先生は、理解しようとしているよ」という態度を示すことが非常に重要なことです。

以前、私が私立高校の理事をしている時にこんな生徒がいました。その生徒は悪い仲間誘われて犯罪に加担してしまいました。自動販売機からお金を盗もうとする企ての、その見張り役にさせられ、警察に捕まってしまいました。普通なら、そんな彼に対して思い切り叱りつけて反省を促すと思います。もちろん、そのやり方が悪いわけではありません。しかし、私は、この生徒に対して、そのやり方では、一層心を閉ざすことになってしまうと思い、次のように話をしました。

「今回のことだけど、もしかしたら、俺が君の立場でも、そういうことをやってしまうかもしれないなあ。自動販売機からお金を盗むって悪いことだけれども、みんなから頼まれたんだったら、見張りになってしまうかもしれないな、俺も。だが

ら、そういう部分では、君がこうやって捕まったのは不運なことだったかもしれないね。でも、こういうことをもう一回やるかい？もうやりたくないだろ。そうしたら、どうしたらいいの。ちょっと先生と考えてみないか？

犯罪に加担したことを、頭ごなしではなく、このように話して「そうか、先生も、もしかすると、僕と同じ立場になるのか」というところからスタートしていけば、生徒も聞きやすくなります。そうしておけば、注意や命令ではなく、自分で「これからどうしたらよいか」と促すように持っていくことが可能です。こういうことが言えるようになるためには、生徒のところまで降りていくという感覚が必要です。これがラポールを築く一つの手段です。つまり、共感的態度をとって、生徒と向き合うのです。

#### 2. 生徒自身の足で歩いてもらうために！

学校の先生然り、塾の先生然りですが、先生はみんな建前で言うことが本当に多いものです。例えば「そういうのは悪いって知ってただろ」という具合です。これも、数年前に私が学園改革を行ったある私立学校での話です。この学校は、建前で語る先生が一杯いました。

A先生は、生徒指導を担当しており、空手部の顧問でもありました。空手部の生徒たちが中庭で何かして遊んでいたらしいのですが、ちょうどそれを二階からA先生が見つめました。その学校では、中庭で遊ぶことは禁止されているのです。生活指導部の部長でもあり、そして空手部の顧問でもあるA先生は怒り心頭だったのでしょうか。上から怒鳴っているところに私は出くわしました。

「お前ら、それが悪いの分かってるだろ！」とものすごい剣幕です。生徒たちは「はい」と答えます。「じゃ、なんでやるんだよ！」、「すいませんでした」と、先生が怒鳴って、生徒が謝るという、しばらくその繰り返しでした。私は思いました。「これじゃ、この先生は生徒のことは何も分からないだろうな」と。

生徒は悪いことだと分かってやっています。そこで遊ぶのが禁止されているのはみんな知っているのですから。生徒が悪いと分かっている、それをやるのは、何か悪いことをやりたい理由があるからです。「それがいったい何なのか」というところに関心を持ったほうがいいのです。そうすると、こんな対応も可能になります。「そうか、そんな理由で悪いことやったのか。そういう気持ちになったら、先生もやるかもしれないな。じゃあ、そんな気持ちにならないためにはどうしたらいいの

## 中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.101

な。こう考えたほうが良かったんじゃないか。そうしたら、やらなくて済んだと思うぜ」。

結局、私たちは、生徒の指導者ですから、最終的には、生徒たちを良い方向に導いていかなければなりません。導いてゆくためには、彼ら自身が自分の足で歩いてくれば困ります。彼らの足が動くために、私たちは彼らのエンジンにならなければならないのです。エンジンとして一緒に乗ってやらないといけないわけですから、「嫌だよ、一緒に乗らないでよ」と言われたい状況を作らなければなりません。

そのために、まず、やった事実・起こった事実に対して「受容する」ということが非常に重要なことになるのです。受容がないと、その先は進みません。まずしっかりと受容することがラポールを築く第一歩となります。この先生なら、僕のこと、私のことを分かってくれるかもしれないなというきっかけ作りが「受容」なのです。

### 3. 寄り添う気持ちが大切。だけれど・・・

ここまで見てきたように、ラポールを築くためには、生徒に気持ちで寄り添ってあげることが大切です。しかし、寄り添いすぎて、「全面肯定」してしまっただけでは駄目です。ミイラ取りがミイラにならない強い気持ちが先生にないと、先生が取り込まれてミイラになってしまいます。これも非常に重要な部分です。

それでは、教師はどういう意識でいることが重要なのでしょうか。ラポールを築くとは、生徒に自分を受容させることです。そのためには、まず彼らを受容しなければなりません。しかし、ラポールを築くその目的とは、生徒に適切な方向に向かって歩んでもらうということです。彼らを導くためにラポールが必要なのです。ですから、「不適切な状況に自分も一緒に加担することは絶対しない」と強く決めておかなければなりません。

受容もします。共感もします。しかし、それは生徒の過ちを肯定することとは違います。悪いことをしてしまった、その時の気持ちに共感しつつも、それを二度と繰り返さないための導きを私たちはしなければなりません。最近の先生には、その信念がかけているように思うのは、私だけでしょうか。

私たちの指導は、生徒を適切な方向に導くのが目的です。そこを見失わないでください。こちらが近くに寄りすぎて生徒が拒絶してくることもあります。そうしたらちょっと離れてください。すぐには結果が出ることは少ないでしょう。ですから、何回もアプローチをすることが大切なのです。

### 4. いろんな角度から生徒を刺激する！

ラポールを築くためには、受容と共感だけでなく、彼らにいろいろな価値の提示や大人になるための道筋を示してやることも必要となります。例えば、「大人になるってどういうことだと思う？」と問うてみたりしてください。私は、現場にいる時

はよくこんな話を生徒にしました。

「先生は大人だよな。僕は、こうして君たちに勉強を教えてお金を稼いで生活している。大人になるってことは何かでお金を稼いで生活しなきゃいけないんだよ。じゃあ、そうしたら、君たちは、何かでお金を稼ぐというその『何か』を見つけなきゃいけないよね。そのためには勉強しなければならないし、その『何か』が見つからない限り社会には出られない。だから大学へ行行って、その『何か』を探してみる人も多んだよ。そんなふう考えたほうがいいよ。実は、こんなこと大人になったら誰も教えてはくれないよ。だから、今のうちからいっぱい教えてもらったほうがいいんだよ」。

また、授業中に本の紹介もたくさんしました。「大人になったら、忙しくて意外と本を読まないから、今のうちにいっぱい読んだほうがいいよ」なんて言いながら本を紹介しました。「こんな本があるから、読んでみな」と、薄い本から厚い本まで徐々に出していきました。そのときは必ず、本のあらすじを少し伝えることが重要です。すると「面白そうだな」と興味を持つ生徒が出てきます。そうして「じゃあ、ちょっと詳しく読んでみてごらん」と勧めます。本の紹介は、このような形でやったほうがいいでしょう。そうして、私は、「何月何日までに読んできな」とか「買ったって持ってきた」とか言っていました。

そして、生徒が読んだ後には「どうだった？」と必ず聞きます。私の好きな本に「ゲド戦記」があるのですが、「ほら、ゲドは影がなかっただろ、どんな理由か分かる？」などと問いかけをします。生徒が読んだら、またその話をします。そういう中で教科を超えるいろんなことを伝えて、「大人になるってどういうことなのか」を考えさせました。こういうことを続けると、生徒は、徐々に「あ、そうか、そこまで先生は教えてくれるんだ」、「勉強以外のこんなことまで教えてくれるんだ」、「だったら、先生に相談しようかな」という気持ちになります。そうすると、今度は部活のこと、彼氏・彼女の問題、高校のこと、将来の夢、家庭の問題など、様々な相談がやって来るようになります。こういう個人的な相談に乗ると、さらに彼らとラポールが高まるのです。

先生は授業も行い、生徒指導も行い、そしてなおかつ、生徒たちとラポールを築くために多面的な良い刺激を与えていくことを考えるといいと思います。一つのボタンしか押さない刺激ではなく、いろんな角度で、ドンドン生徒を刺激して欲しいと思います。

私は、昔の偉人の話もよくしました。「種田山頭火っていう人がいてな、鉄道がある昭和の時代に、歩いて全国を旅するんだ。今、できるか？その人は、無銭飲食とかもいっぱいしているんだよ。食い逃げしながら生きてるなんて凄いだろ。そうして最後は弟子たちに看取られながら、二日酔いで死んでいったんだ。こんな生き方できるか？先生、この人のことが大好きなんだ。『なんでか？』、だって自由じゃん！君たちは『そんなの

# 中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.101

『乞食と同じだ』って言うけれど、乞食も徹底すりゃ格好いいだろ！乞食で歴史に残ってるのは彼だけなんだぞ！」なんて具合です。

簡単にいえば、先生が「メディア」になるということです。ある時は、ドキュメンタリーを純粋に伝えて彼らの解釈を待ちます。あるときは、青春ドラマだったり、悲しいドラマだったり、またニュースだったり。最後は希望が持てるような偉人伝が先生を通じて放送される。定期的に先生の口からいろいろなことが語られる。そういうことがラポール形成には非常に重要だと思のです。教科という引き出しだけではなく、人間としての引き出しをあなたはどれくらい持っているでしょうか。

生徒を受容し、共感し、そして、多面的な良い刺激を与える。ぜひ、ウィズコロナの今こそ、質の高いコミュニケーションを取ってください。

【編集後記】

8月2日（日）教師サポートセミナー@渋谷にて  
中土井が講演いたします

MBAが運営するNPO法人ピースコミュニケーション研究所主催「教師サポートセミナー」にて、中土井が「子どもをやる気にさせるアクティブラーニング」をテーマに講演いたします。中土井の実際の講演を聴きたいという方は、ぜひ、会場までお越し下さい。（参加費無料・要事前申し込み）

8月2日（日）13:00～16:40【参加費：無料】  
アットビジネスセンター渋谷東口駅前

★セミナー詳細・お申込みはこちらから★

<https://management-brain.net/pci/>

★お問合せはこちらから★

TEL 045-651-7030 / Mail : peacecom@tbu.t-com.ne.jp

スマートフォンから取得した位置情報でターゲットを定めて配信するWeb広告

# CHALK Digital

チョーク・デジタル

無料見積受付中



折込チラシを撒くのと同じ感覚で

どこに ● 通塾圏内の小・中学校エリア

いつ ● 平日の通勤時間帯

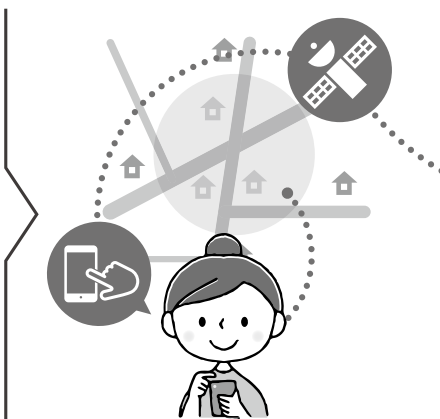
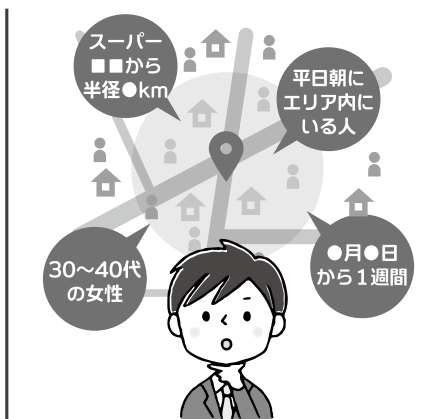
だれに ● 30～50代の男性・女性

と絞って広告配信できるサービスです。

広告を配信するエリア・時間・人を設定します。

エリア内で対象者がアプリを起動すると...

アプリに貴塾のバナー広告が表示されます。



# 数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.65

いささか旧聞に属しますが5月14日、ベネッセホールディングスが学校休校中の小中高校生の保護者を対象にした興味深い調査結果を発表しています。

|        |   |
|--------|---|
| 調査名    | 親子の生活における新型コロナウイルス影響調査                            |
| 調査形式   | インターネット調査   |
| 調査対象   | 全国47都道府県在住の約2,800世帯<br>(幼稚園年中～高校3年生の子どもがいる世帯の保護者) |
| 調査実施時期 | 3/20頃、3/28頃、4/3頃、4/10頃、<br>4/17頃、4/24頃、5/8頃       |

休校はご承知の通り3月2日前後に始まり、GW明けの5月8日になってもまだほとんどの地域で再開されていませんでした。長期にわたる異例の臨時休校です。保護者がさまざまな面で不安を抱いたのは当然でしょうが、下記は「学校の勉強に遅れてしまう」という不安を持った保護者の割合です。休校期間が長くなるにしたがって、とくに小学校低学年と高校生とでは大きく増加しています。

## ●「学校の勉強に遅れてしまう」という不安を感じた保護者の割合

|         | 3月20日前後 | → | 5月8日前後 |           |
|---------|---------|---|--------|-----------|
| 小低学年保護者 | 23.3%   | → | 50.5%  | (27.2pt増) |
| 小高学年保護者 | 44.2%   | → | 56.0%  | (11.8pt増) |
| 中学生保護者  | 47.4%   | → | 60.4%  | (13.0pt増) |
| 高校生保護者  | 31.6%   | → | 53.4%  | (21.8pt増) |

休校期間中に脚光を浴びたのがオンライン指導を始めとしたデジタルデバイスの利用でした。同調査によると、デジタルデバイスを利用して学習した児童・生徒の割合は以下のようになっています（学校からの宿題も含む）。

## ●デジタルデバイスを利用した児童・生徒の割合

|      | 4月24日前後 | → | 5月8日前後 |           |
|------|---------|---|--------|-----------|
| 小低学年 | 22.7%   | → | 32.0%  | (9.3pt増)  |
| 小高学年 | 28.5%   | → | 34.1%  | (5.6pt増)  |
| 中学生  | 30.7%   | → | 40.0%  | (9.3pt増)  |
| 高校生  | 33.3%   | → | 44.3%  | (11.0pt増) |

4月下旬時点で3割前後だった利用率が、2週間後の5月8日前後には4割近くまで上昇していて、急激に増加していることがわかります。

ちなみに文科省が4月16日時点で全国の公立小中高を対象に行った調査ではこんな結果が出ています。

## ●臨時休業中の家庭学習（複数回答あり）

|                              |      |
|------------------------------|------|
| 教科書や紙の教材を活用した家庭学習            | 100% |
| テレビ放送を活用した家庭学習               | 24%  |
| 教育委員会が独自に作成した授業動画を活用した家庭学習   | 10%  |
| 上記以外のデジタル教科書やデジタル教材を活用した家庭学習 | 29%  |
| 同時双方向型のオンライン指導を通じた家庭学習       | 5%   |
| その他                          | 12%  |

(文科省／「新型コロナウイルス感染症対策のための学校の臨時休業に関連した公立学校における学習指導等の取組状況について」)

では、こうしたデジタルデバイスとくにオンライン指導を受けた子どもの保護者の印象はどうだったのでしょうか。

## ●「時間通りやっても、本当に授業を子どもが理解できているかわからない」割合

| 小低学年保護者 | 小高学年保護者 | 中学生保護者 | 高校生保護者 |
|---------|---------|--------|--------|
| 36.6%   | 43.1%   | 43.7%  | 45.8%  |

## ●「単調なため子どもの集中力が続かない」割合

| 小低学年保護者 | 小高学年保護者 | 中学生保護者 | 高校生保護者 |
|---------|---------|--------|--------|
| 38.8%   | 30.3%   | 30.7%  | 19.4%  |

オンライン指導とひとくちで言っても、解説動画を配信するタイプもあれば、問題集形式のデジタル教材を配信するタイプ、同時双方向の授業を配信するタイプ、いわゆるオンライン自習室などなど、じつにさまざまなものがあります。

個々の子どもにどれが適しているのか、学年や子どもの性格などによって大きく異なるのですが、そのどれであれ、保護者は学年が下の子どもほど「集中力の継続」が、学年が上の子どもほど「理解の程度」が気になったようです。

われわれ学習塾にとって、コロナの再襲来があるかどうかは別にして、オンライン指導はすでに標準装備になりました。

これをどう進めていけばよいのか、早急に検討しておく必要がありそうです。